

福井市防火委員会70年のあゆみ

戦後の復興期、「自分達の街は、自分達で護る」という基本理念の基に本会が設立されて以来、社会情勢の変化に合わせて、たゆみなく歩み続けてきました。

70周年という大きな節目を迎えた今、火災をはじめとする災害も頻発しており、複雑かつ大規模化の様相を呈しています。

安全、安心なまちを次代に引き継ぐ礎とするため、過去の軌跡を振り返ってみました。

昭和 26 年

3月2日

会員相互が会費を出し合い各種防火事業を運営し、会員の所属事業所から火事を出すまいとの固い決意から本会を設立する。

5月1日

市内の中学校1年生を対象として、少年少女に火の科学を通じて防火の知識を指導し、これに基づく実践活動を積極的に行い、多くの人々に防火の素養を身につけさせ、もって将来立派な成人になることを目標として少年消防クラブを結成する。



昭和 30 年

4月9日

組織会員をさらに増やすため、全市町内会を構成する市民(世帯)を会員とすることとし、事業の活発化を図る。

昭和 32 年

8月24日

自衛消防操法大会を開催し、初期消火技術の向上を図る。



昭和 33 年

4月1日

町内の防火体制を強化するため、全町内会に町内特別防火班の編成を指導する。

昭和 35 年

4月1日

町内防火のリーダーとして、町内防火責任者を設置する。

昭和 37 年

1 月 20 日

本会の育成団体として、少年消防クラブ、自衛消防研究会に加え、防火管理者会、危険物取扱主任者会を設立し、積極的な自主研修と事業防火に努める。

また、上記会員を対象に、火災予防運動期間等の機会をとらえ、防火管理知識及び危険物取扱技術のかん養のため、講習、講演会等を開催する。(年 2 回)

昭和 38 年

4 月 1 日

年間 1 世帯あたりの会費を、30円から50円に改め、防火事業の促進を図る。

昭和 39 年

4 月 24 日

町内防火責任者制度を発展的に解消し、町内防火指導員制度を制定、指導員に対しては本学会長から委嘱する。

昭和 41 年

3 月 20 日

各町内会の共同防火体制強化のため、共同用消火器に対する「補助金交付制度」を発足する。

昭和 42 年

3 月 20 日

毎月30日(2月は月末)を「市民防火の日」、毎日午後9時を「市民防火の時間」と制定する。



昭和 43 年

1 月 20 日

第23回福井国体を防火で支えるため、福井国体市民運動部の中核として運動を推進する。

4 月 1 日

防火の正しい習慣と知識を普及するため、実験・実演を主体とした「ママさん防火教室」を地区別に開催する。

5 月 16 日

本会の事業内容等について意見を求めるため、「防火モニター」を委嘱し、モニター会議を開催して事業に反映する。

9 月 10 日

市内全世帯に「防火点検帳」を配布し、自主防火点検を啓蒙する。

昭和 45 年

4 月 13 日

火災危険が大きい地区を防火推進モデル地区に指定する。また、防火指導員の補佐役として10世帯毎に1名の「婦人防火指導員」を設置する。

7 月 8 日

小規模な事業体を対象に、「防火責任者会」を設立し、育成指導を図る。

9 月 25 日

(財)日本損害保険協会の協力を得て、東北工業大学の藤田金一郎教授による都市防火診断と福井市の防火について特別講演会を開催する。

10 月 8 日

市内で連続放火事件が発生、夜警の実施と町内防火班を強化する。

昭和 46 年

3 月 23 日

本会設立20周年にあたり、市民防火推進大会を開催し、火災防止及び「焼死者ゼロ」を目指す決議を行う。

6月1日

法令の改正に伴い、「危険物取扱主任者会」を「危険物取扱者会」に改称する。

昭和47年

3月23日

消防の広域体制確立に伴い、本会も福井市、美山町、越廼村及び清水町の1市2町1村に広域化され、「福井地区防火委員会」と改称する。

4月1日

少年消防クラブ員の対象を、中学1年生から小学5・6年生に移行する。

5月5日

子供の日に際し、ちびっ子防火広場を開催して火遊びの防止等呼びかける。

昭和48年

3月29日

主婦を対象に防火作文を募集し、優秀者を表彰するとともに、その作品を防火広報に活用する。

11月26日

防火標語入りの防火広報旗を作成し、全町内会等に配布する。

昭和49年

2月25日

町内会等で購入する小型動力ポンプを対象に、1台につき3万円の補助を実施する。

昭和50年

5月16日

警備保障会社の警備員に対し、初期消火技術の向上を図るため講習会を実施する。

9月27日

花嫁修業のための各種専門学校生に対し、家庭における防火指導を実施する。

昭和51年

10月7日

福井工業大学の鳥取教授を招き、危険物取扱者を対象として静電気に関する講習会を開催する。

10月15日

県主催の「みんなの消費生活展」に防火展を併設し、防火思想の普及啓蒙に努める。

昭和52年

3月28日

火災予防運動に伴い、航空機による空からの巡回広報を実施する。

昭和53年

2月27日

1世帯当りの年会費を50円から100円に改定し、防火事業の充実を図る。

4月5日

福井地震30周年を契機に、「地震対策部会」を設置し、今後の地震対策について地震災害経験者から若年層に継承するため検討会を開催する。

6月16日

地震発生時等における諸対策について、アンケートを実施し、防災指導上の参考とする。

10月8日

地震時の恐怖を認識、体験させ、有事の際に備えるためミニ起震装置を開発製作し、各種防火広報行事に活用する。



昭和54年

3月15日

職場用防火標語を募集する。
入選作品「見おとすな職場のすみずみ防火の目」

9月19日

各町内の婦人会に呼びかけ、婦人防火クラブを結成(14クラブ、472名)し、火の元点検等防火実践活動を開始する。

12月5日

(財)日本防火協会から防火広報車の寄贈を受け、防火広報活動に活用する。



昭和55年

4月25日

自主防火組織としての婦人防火クラブ及び少年消防クラブの育成強化を図るため、クラブ活動充実運動を展開し、防火思想の普及活動を推進する。

少年消防クラブ 21クラブ 1,403名
婦人防火クラブ 18クラブ 692名

昭和56年

1月17日

大雪の中、各地でガス漏洩事故や火災等が多発したため、テレビや新聞を通じて緊急の火災防止を呼びかける。

4月16日

火遊びの防止を啓蒙するため、幼年消防クラブを結成し指導育成する。

11月24日

福井市文化会館等において、設立30周年記念行事を行う。講演会では、俳優の大村 崑氏を招き「消防と笑望」をテーマに、家族の対話と防火のしつけについて講演を実施する。



昭和57年

5月28日

FBC会館大ホールにおいて、(財)日本消防設備安全センター常務理事 本田行世氏を講師に招き「消防用設備等と防火管理」をテーマに、防火管理者特別講演会を実施する。

8月6・7日

管内の少年消防クラブ員及び婦人防火クラブ員150名を対象に福井市少年自然の家において、ファイヤーサマースクールを実施。日常生活の中での火災予防の実践について研修する。

10月19日

幼年、婦人の各消防クラブ育成に貢献があったとして、(財)日本防火協会から感謝状が授与される。

昭和58年

5月19日

御幸4丁目の和田公園において管内の園児を対象に「ちびっこ防火大会」を開催する。



昭和 59 年

11 月 23 日

秋季火災予防運動期間中のこの日、福井市体育館において、「消防の今昔」、「防災用品の展示」、「ミニ消防車の展示」等を行う。

昭和 60 年

12 月 3 日

小鳩幼稚園の園児とその保護者359名が餅つきを行い、一人暮らしのお年寄りに配布する。

昭和 61 年

3 月

春の火災予防運動にあわせて、当委員会の機関紙である「消防だより」が創刊(B4二つ折、両面1色刷り)され、8万部作成し管内全戸に配布する。



昭和 62 年

5 月 14 日

ちびっこ防火大会を美山町で実施。町内の幼稚園児、保育園児ら300名が「ゲゲゲの鬼太郎」などの防火劇を通じて防火意識を高める。

10 月 8 日

中消防署管内の保育園児ら約1,000名を対象に消防訓練、防火劇等を披露、合わせて松本自動車よりミニ消防車の贈呈を受ける。

11 月 9 日

「119番の日」制定にちなみ、きものの女王らにより、だるまや西武前において街頭広報を行い火災予防を訴える。

12 月 15 日

ミスフェニックスを招いて一日消防官を実施。デパートの防火査察や街頭広報を実施する。



昭和 63 年

5 月 17 日

福井地区婦人防火クラブ連絡協議会を設立する。

平成元年

3 月

小学校高学年を対象に防火ポスターを募集(445点応募)し、最優秀作品1点を春の火災予防運動用ポスターに採用する。

10 月 7 日～10 日

ショッピングシティ・ベルで開催された、(社)日本損害保険協会主催の防災プラザに協賛し、消防車、起震装置等を出展する。

平成 2 年

4 月 24 日

大阪府で行われた母と子の防火全国大会に美山町川上婦人防火クラブ員が出席する。

10 月 1 日

防火委員会に専任の事務局長をおき、当委員会の事務効率化と活動の円滑化を図る。

平成 3 年

4 月 1 日

1世帯当りの年会費を100円から150円に改定し、事業の充実強化を図る。

4 月 19 日

臨海工業地帯の立地企業が集まり、テクノポート福井防火安全協議会を設立する。

6月28日

福井市和田東2丁目に総合防災センターが落成する。

7月1日

福井地区消防本部が、総合防災センター内に移転したことに伴い、防火委員会事務局も同センターに移転する。

10月27日

総合防災センターにおいて、本会設立40周年記念式典を盛大に開催。また、元気象庁 福井敏雄氏を招き防災講演(演題「人生お天気模様」)を行う。



平成4年

10月21日

横浜市で開催された、「第8回全国婦人消防操法大会」において、福井県代表として出場した越廼村婦人消防隊が、準優勝の栄冠に輝く。

平成5年

11月9日

春(秋)の火災予防運動等の防火広報媒体として、(株)ビス・メディア・ネットワークと年間契約を行い、市内9箇所に設置された電光掲示板による防火広報を開始する。



平成6年

6月3日

福井市フェニックス・プラザにおいて開催された、「第18回婦人防火全国大会」に県内外から関係者約2,000名が参集し、当地区からは婦人防火クラブ、幼年消防クラブ等276名が参加し、防火推進活動の誓いを新たにす。

平成7年

2月

少年消防クラブの防火教育を充実するため、液晶ビデオ映写機を購入し、併せて防火ビデオ「消防署の仕事」を制作し各クラブに配布活用する。

平成8年

3月22日

ショッピングシティ・ベルにおいて、「ファイヤー・オリエンテーリング」を開催し、小学生等約250名が参加し、防火クイズ等にチャレンジする。

4月1日

各自治会(区)が整備する初期消火資機材等に対する補助対象に、小型動力ポンプ用ホース、ホース格納箱、消火器格納箱、三角バケツを加え、初期消火体制の強化拡充を図る。

平成9年

11月12日

秋の火災予防運動行事の一環として、市民防災研究所 岡島醇氏を招へいし、防火管理者会及び危険物取扱者会会員を対象に特別防火管理講習を開催する。

平成10年

2月

福井震災50周年を迎え、全戸に防災冊子「わが家の防災対策」を配布し、地震に対する心構えと震災対策等の見直しを訴える。

平成 11 年

7 月 18 日

少年消防クラブ員(小学4年生)が一日消防体験入署を行い、消防署の仕事を学び、防火意識の高揚を図る。



11 月 10 日

秋の火災予防運動行事の一環として、文化放送防災キャスター 高橋民夫氏を招へいし、防火管理者会及び危険物取扱者会会員を対象に特別防火管理講習会を開催する。

平成 12 年

11 月

秋の火災予防運動行事の一環として、婦人防火クラブ員が一人暮らし老人宅を防火訪問して、「防さい箸」を配り防火指導を実施する。

平成 13 年

9 月 22 日

本会設立50周年記念大会として、「第44回自衛消防隊消防操法競技大会」を盛大に開催。過去10年間で最多208チームの参加があり、盛況な中に競技が行われ、自主防火組織の更なる固い団結と自主防火意識の高揚を図る。

平成 14 年

3 月 19 日

福井地区防火委員会設立50周年記念事業として、防災センターにて記念式典及びフジテレビキャスター 黒岩祐治氏を招き記念講演会を開催する。



11 月 9 日

秋の火災予防運動行事の一環として、福井テレビアナウンサー 福田布貴子氏を一日消防署長に委嘱し、防火広報行事を実施する。

平成 15 年

9 月

少子高齢化に対処するため、住宅用防災機器指導セット及び高齢者向けの防火パンフレットを作成し、高齢者の火災等による被害抑制に努める。

平成 16 年

10 月 31 日

秋の火災予防運動行事の一環として、家庭の防火安全対策を強化するため、(独)消防研究所 関沢 愛氏を招き、自治会長及び女性防火クラブ員を対象に特別防災講演会を開催する。

平成 17 年

7 月

年々増加する救急事案に対処できる知識を養成するため、AEDトレーナーを購入し、自治会等での防火教室時に活用する。

10 月 20 日

横浜市で開催された、「第17回全国女性消防操法大会」に、福井県代表として清水町婦人防火クラブが出場する。

平成 18 年

4 月 1 日

市町村合併に伴い、「福井市防火委員会」と改称する。

9 月

住宅用火災警報器の設置が本格化する中、悪質な訪問販売に対する注意喚起を図るためのリーフレットを作成、配布する。

12 月

家庭防火の知識向上のため、初めて女性防火クラブ員を対象とした県外視察研修を行う。

平成 19 年

6 月 2 日

(財)日本防火協会との共催により、女性防火クラブ員研修会を実施し、女性の防災能力向上を図る。



10 月 11 日

あわら市において開催された、北陸・中部ブロック婦人防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会において、福井市内の女性防火クラブ員10名が、住宅用火災警報器をPRする寸劇を披露する。(その後も福井市内の各種会合の席で実施)

平成 20 年

7 月 17 日

福井震災60周年を迎え、防災システム研究所 所長 山村武彦氏を招き、「特別防災研修会」を開催する。

9 月 27 日

「福井市自衛消防隊消防操法競技大会」の第50回記念大会として、競技内容の一部見直しを行い、屋内消火栓の部に2号消火栓を追加する。



平成 21 年

5 月 3 日～5 日

市民の防火・防災意識向上のため、「福井テレビわんぱくフェア」会場に、住宅用火災警報器展示・地震体験・煙体験コーナー等を設ける。



7 月

住宅用火災警報器の早期設置を図るため、設置促進標語の募集を行い、広報活動に活用する。

【12月21日審査会実施】

(応募作品：334点 入賞作品：6点)

平成 22 年

3 月

年2回発行の機関紙名を「福井市防火委員会だより」に改称する。

11 月 7 日

秋の火災予防運動の一環として、「福井ミラクルエレファント」3選手の協力を得て、防火広報活動を行う。

平成 23 年

2 月 19 日～21 日

住宅用火災警報器の設置期限前に、自治会長、防火管理者、危険物取扱者等によるパレードや女優 三咲順子さんによる防災一人語り、自治会関係者による防災座談会等の「住宅用火災警報器設置促進フェスタ」を開催し、早期設置を訴える。



10月1日

東日本大震災によって防災意識が高まり、「自衛消防隊消防操法競技大会」の出場チーム及び参加者が過去最大(251チーム、515名)を数える。

平成24年

5月3日～5日

住宅用火災警報器設置促進広報として、福井少年運動公園わんぱくフェアにおいて、消防音楽隊の演奏や地震体験・煙体験を通じ、住宅用火災警報器の設置促進活動を行う。

3月19日

秋と春の火災予防運動に合わせ、うらら姫等による街頭広報を実施し、「防さい箸」とリーフレットを配布し、火災予防を訴える。

平成25年

2月16日

個人と家庭の防災、危機・災害対策について、防災アドバイザー 高荷智也氏を招き、自治会長及び女性防火クラブ員を対象に防災講演会を開催する。

また、津波防災のDVDを各消防署に配備し、津波防災の意識向上を図る。

平成26年

秋と春の火災予防運動期間等に、大型量販店等において天ぷら油火災防止広報及び住宅用火災警報器展示・説明コーナーを設置して住民指導を行う。

2月13日

災害弱者の防災について、株式会社危機管理教育研究所 国崎伸江氏を招き、病院・社会福祉施設関係者を対象に防災講演会を開催する。

平成27年

10月22日、23日

あわら市グランディア芳泉において、北陸・中部ブロック女性防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会が開催され、本会女性クラブ員15名が参加する。

平成28年

3月19日

福井商工会議所において、「備えと構えで減災を目指す」と題し、たかしま災害支援ボランティアネットワークなまずを招き、自治会長及び女性防火クラブ員を対象に防災講演会を開催する。



11月12日

フェニックス・プラザ小ホールにおいて、落語家川柳つくし師匠による防災落語及び女優三咲順子氏による防災一人語りを上演する。

平成29年

平成28年～平成30年において、女性防火クラブ員活動用ジャンパーを購入し、各消防署に配備する。

平成30年に福井震災70周年を迎えるにあたり、過去の惨事を風化させない取り組みとして、福井県立科学技術高等学校の生徒に紙芝居「片腕の彫刻家」の作成を依頼する。



11月24日

平成30年の福井国体を迎えるにあたり、国体関係者、宿泊施設関係者を対象に、日本防火・防災協会 会田幸子氏を招き、「防火・防災はみんなの力で」と題し防火防災研修会を開催する。

平成 30 年

6 月 1 日

福井震災70周年記念事業として昨年作成した福井震災紙芝居を、福井テレビアナウンサー今野真帆氏を迎え、公民館、保育園、幼稚園、こども園及び児童館従事者を対象として、初披露する。



令和元年

5 月 25 日

学校体育祭中に突然倒れて亡くなられた女子高校生の母親川崎真弓氏が A E D 普及活動を行っている物語「命のバトン」を、声楽家の岩田瞳氏と音楽家の中島健太氏が上演する。



9 月

児童・園児用に、消防自動車のペーパークラフト5,000枚を購入し、署内見学等に活用する。

令和 2 年

4 月 16 日、27 日

令和 2 年度の役員会及び定例総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面表決により開催する。

更に、「第62回福井市自衛消防隊消防操法競技大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止する。

なお、この開催資金で、冬季間における消火栓の維持管理を推進するため、消火栓位置標示用赤旗を5,000本作製し、希望する自治会に配備する。



令和 3 年

4 月 19 日

令和 3 年度の役員会を商工会議所で開催するが、定例総会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面表決により開催する。

「第62回福井市自衛消防隊消防操法競技大会」が、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止する。

なお、この開催資金で、冬季間における消火栓の維持管理を推進するため、消火栓位置標示用赤旗を4,000本作製し、現存する公設消火栓全てを充足する。